

九州 兼喜

2011.1

No. 110

迎春

謹んで

新年を

御祝詞を

申上げました

平成二十三年 元旦



年頭のご挨拶



九州兼喜会
会長

篠森義晴



新年明けましておめでとうございます。

清水建設(株)九州支店の皆様、又、九州兼喜会の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えられましたことを謹んでお慶び申し上げます。

昨年は皆様方に多大なる御指導、御鞭撻を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。九州兼喜会会長として初めての新年を迎え、改めて身の引き締まる想いでございます。

100年に一度とも言われる未曾有の経済危機の中で先を見通せない時代となっておりますが、特に、建設業を取りまく経済環境は、公共工事の削減をはじめとした建設投資の大幅な減少などの影響を受け、一段と厳しい状況にあります。昨今のこの混沌とした状態は、「厳しい」を越え「限界」に到達していると言っても過言ではありません。

昨年を振り返りますと、ハイチ、チリの大地震にはじまり、異常気象による熱中症の激増、口蹄疫の拡大、普天間、尖閣、北方四島の外交問題、政治の混乱、債務残高900兆円を突破・・・世の中が深く重い閉塞感の闇に閉じ込められてるようになります。

チリの鉱山の落盤事故はまだ、皆様の記憶に新しいところだと思います。閉じ込められた作業員の方々は、極限の状況の中でも、規律を乱さず、仲間を思いやり、「希望」を捨てなかったと聞いております。

今こそ、我々の真価が問われているように感じます。

「論語より算盤」という今の世の中の風潮では、この閉塞感は打破できないと考えます。今一度「論語と算盤」の理念を胸に、正直さと親切さ、そして、希望を持ってシミズの邁進に御協力できれ

ばと願います。九州兼喜会の団結力は全国一であると自負しております。

若い世代がこの職に誇りと魅力を持てるような、新たな建設業界の未来を描き、実現していくことが極めて重要であります。

その為にも、清水建設が最善の計画（段取）を立て、我々が工夫と改善をしながら確実に実行し、最高のものをつくるという原点を忘れてはなりません。

切磋琢磨し最高の「ものづくり」を完遂すれば、必ず喜び・達成感・魅力を感じることが出来、清水・兼喜共に、明るい未来が切り拓かれると信じております。

2011年は卯年であります。「丑つまずき、寅千里を走り、卯跳ねる」という言葉があります。卯年は株価が跳ね上がり、景気が良くなるという話があるそうです。景気予測も今年は明るい見通しだそうです。希望をもって前進しましょう。

皆様方にとりまして、2011年が新たな発展の道筋を切り拓くスタートの年となりますよう、又、全ての現場での無災害を心からお祈り申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。

本年も何卒、宜しく願い申し上げます。





年頭のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

九州兼喜会の皆様におかれましては、気持ちも新たにこの新年をお迎えになられたこととお喜び申しあげます。日頃は皆様方に一方ならぬご支援・ご協力を頂き、深く感謝申しあげますとともに、今年も変わらずお付き合い頂きますようお願い申しあげます。

昨年は世界の中での日本の立ち位置を改めて深く認識させられた年だったと言えるのではないのでしょうか。普天間基地問題で右往左往していた途端の尖閣諸島海域での中国との軋轢、予告なしの北方領土訪問を実行したロシア、北朝鮮の韓国への砲撃、まさに波高しといった状況です。COP10やCOP16の場では、必死に努力し、各国をリードしてきたと自負していたはずが、資源産出国と利用国との論理の行き違い、CO₂を排出してきた国とこれから本格的に排出せざるを得ない国との受け入れがたい現実、駆け引きに直面し、力を発揮できない姿がありました。エネルギーや食糧という国家の安全保障に関わる課題についても、外交の弱体化や本質からかけ離れた議論を繰り返しては有効な策は見つかるはずもなく、FTAやTPPも急ぎ付け焼刃の感が否めません。変化を作り出す側ではなく、変化を受容する側の国になってしまったかのようです。

一方、国内は政治の停滞、検察不信、保険や年金のビジョンの欠落、医療・介護の不確実性、少子化への誤った対策等、仕組みの不具合がよく見えてきた年であったとも言えます。

九州では3月の新幹線全線開通、博多駅開業の明るい話題が今年にはあり、景気も少し持ち直しの気運にあると言われます。

世界人口の爆発的増大と資源エネルギー多消費型経済成長がしばらくは続くと思われる中、国内企業もこの動きを懸命に追っています。我々も国内からの流出を懸念するばかりでなく、お客様の動きを丹念に見て、情報・提案力・実現力を準備しておかねばなりません。

清水建設(株) 九州支店
執行役員支店長

波 岡 滋



お客様もグローバルな競争の中で生き残りを賭けた事業展開・投資を考えていらっしゃると思います。我々もお客様のそうした必死の思いを受け、お応えしていく使命があります。あらゆるプロセスを見直し、我々が改善できる所は少しでも改善し、ご要望に沿うあるいは超える提案が求められていると考えます。

官庁工事についても、新規事業に費やせる財源が限られる中、高度成長期に各地に整備したインフラや土木構造物の劣化に対し、何を優先的に残し、補修・維持をしていくかの議論やそれを実現するための手段、資金調達、整備するための仕組み等課題が山積しています。我々も手をこまねている猶豫はなく、積極的に何ができるか勉強し、提案に結びつけていかねばなりません。

建設業に対する社会からのさまざまな要求レベルは一段と高まるばかりです。現場で予測されるリスクを十分に洗いだし、具体的・重点的にやるべきことを徹底し、大きなリスクを未然に摘み取り、業務に支障のないようにすることが肝要です。QCDSE全般に渡り守るべき所は徹底的に守り、チャレンジすべきことは積極果敢にチャレンジし、前向きに取り組んでいきたいと考えます。

昨年は、残念ながら熱中症による死亡災害を発生させてしまいました。しかし、九州の安全文化の高さと、それを守ってくださっている皆様の意識の高さに、本当に感謝するとともに敬意を表する次第です。今年度もあと3ヶ月ありますので、気を緩めることなく、無災害で乗り切れるようご協力の程よろしくお願い申しあげます。

今年は建設業にとって真の正念場になると思います。皆様ときちんとコミュニケーションをとり、一致団結して清水グループの結束力の強さを見せていただければと切望するとともに、その先頭に立って頑張っていく所存です。

最後になりますが、兼喜会会員各社様の益々のご隆盛と、会員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。今年もよろしくようお願い申しあげます。

第19回 清水建設全国連合兼喜会 後継者育成研修報告書

九州兼喜会 青年部 後藤 勝
福岡支部 アオケン(株)

平成22年11月18日(木)～19日(金)に東京チサンホテル浜松町に於いて、清水建設全国連合兼喜会第19回後継者育成研修が開催され、九州より3名が参加しました。

初日は、東京兼喜会青年部青木部長の司会のもと、全国連合兼喜会石井副会長から主旨説明があり、次いで全国連合兼喜会青木洋次郎会長からのメッセージを石井副会長が代読されました。(政治、外交、経済の取り巻く環境は閉塞感が漂っているが、和顔愛語で2日間は楽しい研修にしてほしい。また、チリの落盤事故でリーダーの下で統制の取れた行動は見習うべきものがある。時代がどう変わろうとリーダーのあり方の考えを新にする事が大事ではないか。)とのメッセージを頂きました。

まず初めに安全環境本部長白田様よりストックマネジメントの日本の現状の説明があり、次に災害事例についての講話がありました。平成21年度の建設業の死亡災害は371人、その中で墜落・転落災害は40%を占め、更に新規入場者の一週間以内の災害が53%を占めている。

このような数字をみると新規入場教育が如何に大事かを再認識致しました。今後は弊社に戻り送り出し教育の内容の見直しや改善を行い、作業員とのコミュニケーションを図り現場に送り出したいと思えます。

次にグリーンファイル(GFS)についての説明、環境関連では、産業廃棄物処理法の改正、平成23年4月から施行についての説明、最後にCOP10の取り組みについての講話がありました。その中で二日目に見学に行くシミズ・オープン・アカデミー内に、人口のビオトープにより、鳥・魚・虫などのとの共生を実現しています。近代化が進む中、このような地球環境問題も並行して取り組まれている事を観て驚嘆しました。

次に建築事業本部長稲崎様より、清水建設の歴史、海外プロジェクト、宇宙ホテル計画などの説明がありました。

今年、清水建設207年目の今、大切な事は、①誠意②挑戦③仲間への感謝。そういう気持ちを持ちお客様と接する。また、仕事には厳しく人には優しく明るく元気に頑張ることが大事な事だとの講話を頂きました。

次に調達センター所長荒畑様より、清水建設と兼喜会とは車の両輪である。しかし、将来に向けコスト抜きでは考えられない。この厳しい時代を生き抜く為には、お互いにコミュニケーションを充実させ、管理、生産性、提案力を見直し、少しでも無駄を省くことがコスト競争に打ち勝つことに繋がるとの講話を頂きました。

研修2日目は、江東区越中島の清水建設技術研究所にて、シミズ・オープン・アカデミーの主任研究員林様より館内の説明があり、耐震・免震・制震について、地球環境と建設、都市緑化の講義がありました。まず、免震構造について建物と地面を切り離し、揺れのエネルギーを小さくする積層ゴムの種類や強度やパーシャルフロート免震、塔頂免震などについて現実のものを見ながら講義を受けました。次に本社ビルの超環境型オフィスを実際のプロアを再現した部屋に行きタスク&アンビエント照明、空調システム、太陽光を利用したシステムなどを見学しました。この環境配慮型オフィスではCO₂排出量が約50%削減出来るとのことです。次に壁面緑化を見学、館内に戻りグリーンフロート計画、宇宙ホテル計画、ルナリング構想の説明を受けました。その他数多くの資料が展示されていました。

今回、初めて研修に参加させて頂きまして、清水建設の200年以上の歴史に感銘したとともに、素晴らしい建物の原点は、信頼関係であり、作業員とのコミュニケーションであり、清水建設と兼喜会の強い繋がりにあることを再認識致しました。今回の研修で学んだ事を弊社社員、作業員に伝授し、切磋琢磨していきたいと思えます。最後に今回の研修に参加させて頂きまして有難う御座いました。心より厚く御礼申し上げます。

育成研修



九州兼喜会 青年部
鹿児島支部

掛 上 博 彦

平成22年10月22日（金曜日）に九州兼喜会青年部は、各支部より30名余りが参加し、秋の研修会を鹿児島県で開催させていただきました。今回は、鹿児島県日置市吹上町与倉に本社を置く、創業1845年（弘化2年）の焼酎製造者である西酒造様の蔵見学をさせていただきました。

西酒造様に到着後、各担当者の皆様方からご挨拶がありPRビデオ鑑賞の後、製造場・米蔵・貯蔵場・試験製造室等のご案内を受けました。

焼酎蔵の隣に、麴米を備蓄するための米蔵があり、蔵の中に備蓄されているのは、鹿児島県の契約農家が丹精込めて育てた県産米だけとの説明を受けました。さらに、玄米を最大1,100t保管できる米蔵の中は、米の鮮度を保つため常時13℃～15℃に温度管理されており、一度の仕込みに使う量だけを常温で一日寝かせた後精米し、麴米として良い状態にして使用しているそうです。

焼酎に欠かせないもう一つの原料「芋」も同様に鹿児島県の契約農家で栽培された芋だけを

使用しており、社員総出で芋を選別し新鮮なうちに仕込んでいるということでした。

西酒造様では契約農家による芋、米の生産から、芋の選別、製麴、もろみ造り、蒸留、貯蔵、瓶詰めという一連の工程を徹底した品質管理のもとに成されておりさらには、試験製造室で、酒造造りの工程をそのまま再現できるミニスケール焼酎蔵を活かしながら、新しい焼酎の開発、焼酎粕のゼロエミッションにも着手し、一切粕を発生させない画期的な製法を開発するなど、感銘を受けることばかりでした。

業種は違えども私たち、ものづくりに携わる者としてこの厳しい現状を乗り越えていくために、目指していかなければならない方向性の一つをつかみ取る事の出来た有意義な研修会ではなかったかと思います。

最後になりましたが、今回の研修会に多大なご協力を頂きました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



兼喜会理事会、役員会議事録

○役員会

とき	平成22年11月12日(金)
ところ	司ロイヤルホテル
出席者	篠森会長他16名 《支店より》 松浦副支店長様 安全環境部 野上部長様 調達部 岡田部長様

【議 題】

- 平成22年度兼喜会・災害防止協議会中間報告の件
- 12月役員会の件
- 青年部
 - 支部長会議の件
 - 秋の研修会の件
 - 青年部入会希望者の件
- その他
 - 清水建設全国連合兼喜会第3回支部長会議報告の件
 - 瀬戸内オープンゴルフの件
 - 清友会秋季懇親会の件
 - 初盆の件
 - 各支部の意見

○役員会

とき	平成22年12月2日(木)
ところ	西鉄グランドホテル
出席者	篠森会長他17名 《支店より》 松浦副支店長様 安全環境部 野上部長様 調達部 岡田部長様

【議 題】

- 12月度役員会の件
- 清水建設全国連合兼喜会第52回定時総会(北海道大会)の件
- その他
 - 新入会員申請の件
 - 各支部の意見

○理事会

とき	平成22年8月2日(月)
ところ	兼喜会事務所
とき	平成22年9月3日(金)
ところ	兼喜会事務所
とき	平成22年10月1日(金)
ところ	兼喜会事務所
とき	平成22年11月1日(月)
ところ	兼喜会事務所



会員の動向

退 会

○(株)米田製作所(金物・資材)	(22.9.1)
米田 修	
○(株)エビハラ(金物・資材)	(22.9.10)
海老原利之	
○(株)九州造園(造園)	(22.11.12)
藤田良司	
○(有)前島土建(鳶土工)	(22.12.31)
前島健作	

会員名変更

○松田都市開発(株)(研・解体)	22.10.1 変更
旧会員名：原 光正	→新会員名：坂野直樹

